

学校評価報告書

学校名 深谷市立藤沢小学校

校長名 嘉藤 央 印

1 **学校評価のねらい** (学校・園としての受け止め)

本校の教育活動及びその他の学校運営について、その達成状況を整理して取組の適切さを検証することにより、今後の組織的・継続的な改善を図る。また、学校関係者や保護者等から教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される学校づくりを進める。

2 **評価の方法** (自己評価・学校関係者評価・第三者評価の別、回数、方法等)

(1) 全教職員から教育活動その他の学校運営に対して年2回、評価を実施する。

○学校経営、教育課程の編成・実施等に関する評価

※学校経営等、学習指導等、PTA他計47項目について、4段階評価で実施。

※コロナ禍の影響で今年度は1回の実施

(2) 学校関係者(学校運営協議会委員)から教育活動その他の学校運営に対して年1回、評価を実施する。

○教育活動の状況や学校からの情報提供に関する評価

○教育環境の状況に関する評価

※教育活動3項目、教育環境3項目、計6項目について、4段階評価で実施。

※コロナ禍の影響で今年度は実施せず。

(3) 全保護者から教育活動その他の学校運営に対して年2回、評価を実施する。

○教育活動の状況や学校からの情報提供に関する評価

○教育環境の状況に関する評価

※10項目について、4段階評価を実施。あわせて家庭での学習や生活の状況等(8項目)についての自己評価を実施。

※コロナ禍の影響で今年度は1回の実施

(4) 全児童から学校生活での学習状況や道徳性について年2回、自己評価する。

○学校での学習状況や道徳性に関する自己評価

※17項目について、4段階評価で実施。

3 **評価の結果**

(1) 主な指標の変化

- ・児童への調査では、全評価項目17のうち、14項目が、90%を超える高い数値を示している。コロナ禍で教育活動が大きく制限されたためか、「学校が楽しい」が年間平均92.7%(昨年度比2%減)、「学校が好き」が93.4%(昨

年度比1.4%減)と若干減少している。「困った時に先生に相談していますか」は年間83.6%(昨年度比4.5%減)となっており、次年度の課題である。

- ・保護者への調査では、学校の教育活動に係る評価が、昨年度と同様、全10項目で90%以上の評価を得ている。特に、「豊かな心の育成」、「たくましい体の育成」、「学校教育目標の具現化」の項目は98%以上を達成している。家庭での様子に係る評価8項目の中では、「家庭での学習習慣が身に付いている」が77.5%と、昨年度とほぼ同様の結果を得ることができた。年度当初、臨時休校により家庭で過ごす日々が長く続いたが、動画を作成しYouTubeで配信したり、学習プリントを各家庭を訪問し配布したりするなど、地道に家庭学習をサポートしていった取り組みの効果のあらわれであると思われる。

## (2) 学校教育目標の具現化に向けた指標

- ・保護者アンケートでは、「やさしく思いやりのある豊かな心の育成」99.1%(昨年度比0.9%増)、「分かりやすい授業」97.5%(昨年度比0.5%増)、「たくましく健やかな体の育成」98.7%(昨年度比0.4%減)、「子どものことについて相談に応じている」97.4%(昨年度比0.6%減)、「学校教育目標達成を目指し、計画的に教育活動をしている」98.3%(昨年度比0.7%増)と若干の増減はあるものの昨年度とほぼ同様な高い数値を示している。

## (3) 学校研究課題の具現化に向けた指標

### ○学校研究課題

「望ましい価値判断ができる児童の育成 ～渋沢栄一翁のこころざしを通して～」

- ・全体の傾向としては、17項目に係る評価の平均が93.0%であり、高い自己評価の数値を示していると言える。
- ・児童の傾向としては、「友達に親切」や「ありがとう・ごめんなさいがいえる」、「先生の話をも素直に聞くことができる」などに係る項目が、年間平均で95%を超え、自己評価は高い。反面、「相手の目を見て笑顔であいさつ」「勇気を持って挑戦」「困ったときに先生へ相談」の3項目は、90%に達することができず、やや自己評価が低い。

## 4 次年度に向けての展望

全評価項目の90%越えを目指して、「ふるさとのような学校」づくりを、より一層、推進していく。本校の課題である学力向上については、今年度の学力調査では、国や県と同等、もしくはそれ以上の良い結果をあげることができた。わかりやすい授業づくりに次年度も継続して取り組んでいき、低位層の底上げはもちろんのこと、特に、中・上位層への働きかけにも配意し、全児童の力を伸ばす取組の充実を図っていく。